



温泉分析書

衛研依第4-166号温 1274号

1 申請者住所氏名 札幌市南区定山溪温泉東3丁目318番地 酒井 惟 雄

2 源泉名および湧出地 定山溪温泉(源泉名ととき和旅館)  
札幌市南区定山溪温泉東4丁目319番地先河川敷地内

3 湧出地における調査および試験成績

(イ) 調査および試験者：北海道立衛生研究所技術吏員 北山正治

(ロ) 調査および試験年月日：平成元年9月8日

(ハ) 泉温：80.5℃(気温：24℃) (ニ) 湧出量：240ℓ/min(自然湧出)

(ヘ) 知覚的試験：無色澄明、微弱カン味、微弱硫化水素臭

(ニ) pH 値：6.6 (ト) ラドン(Rn)：

4 試験室における試験成績

(イ) 試験者：北海道立衛生研究所技術吏員 北山正治

(ロ) 分析終了の年月日：平成元年9月29日

(ハ) 知覚的試験：無色澄明、微弱カン味、ほとんど無臭(採水後3時間)

(ニ) 密度：1.0007 (20/4℃)

(ト) pH 値：6.64

(ハ) 蒸発残留物 3.327 g/kg (130℃)

5 試料1kg中の成分：分量および組成

水素イオン	陽イオン	陰イオン	フッ素イオン	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
H <sup>+</sup>		F <sup>-</sup>							
ナトリウムイオン	Na <sup>+</sup>	塩素イオン	Cl <sup>-</sup>	947.3	41.20	78.42	1615.	45.55	86.68
カリウムイオン	K <sup>+</sup>	水酸イオン	OH <sup>-</sup>	171.2	4.38	8.33			
アンモニウムイオン	NH <sub>4</sub> <sup>+</sup>	硫化水素イオン	HS <sup>-</sup>	1.3	0.07	0.13	0.0	0.00	0.00
マグネシウムイオン	Mg <sup>++</sup>	チオ硫酸イオン	S <sub>2</sub> O <sub>3</sub> <sup>2-</sup>	8.2	0.67	1.28	—	—	—
カルシウムイオン	Ca <sup>++</sup>	リン酸イオン	H <sub>2</sub> PO <sub>4</sub> <sup>-</sup>	123.6	6.17	11.74	0.1	0.00	0.00
アルミニウムイオン	Al <sup>+++</sup>	硫酸イオン	SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup>	—	—	—	90.5	1.88	3.58
マンガンイオン	Mn <sup>++</sup>	炭酸水素イオン	HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	0.7	0.03	0.06	308.5	5.06	9.63
第一鉄イオン	Fe <sup>3+</sup>	炭酸イオン	CO <sub>3</sub> <sup>2-</sup>	0.5	0.02	0.04	0.0	0.00	0.00
第二鉄イオン	Fe <sup>2+</sup>								
計			計	1253.	52.54	100.	2015.	52.55	100.

(イ) 遊離成分

非遊離成分	遊離成分	非遊離成分	遊離成分
メタケイ酸 H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub>	152.5	メタ亜硫酸 HASO <sub>2</sub>	5.4
メタケイ酸 HBO <sub>2</sub>	148.4		
計		計	306.3

溶存物質(ガス性のものを除く)

溶存ガス成分	遊離成分	非遊離成分	遊離成分
遊離二酸化炭素 CO <sub>2</sub>	87.1	メタ亜硫酸 HASO <sub>2</sub>	5.4
遊離硫化水素 H <sub>2</sub> S	0.6		
計	87.7	計	306.3

成分総計

成分	分量	分量
飼イオン	0.024mg/kg	
鉛イオン	検出せず	
総水銀	検出せず	

6 泉質：ナトリウム-塩化物泉(中性低張性高温泉)

7 禁忌症, 適応症：「温泉分析書別表」中5に記載する。

平成元年9月30日

上記原本により謄写す

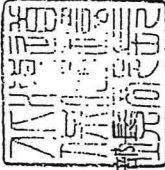
平成9年7月7日

北海道立衛生研究所長 木村浩男

北海道札幌市北区北19条西12丁目

北海道立衛生研究所長

# 温泉分析書別表

1	源 泉 名 : 定 山 溪 温 泉 (と き 和 旅 館)
2	源 泉 所 在 地 : 礼 幌 市 南 区 定 山 溪 温 泉 東 4 丁 目 319 番 地 先 河 川 敷 地 内
3	温 泉 分 析 申 請 者 : 礼 幌 市 南 区 定 山 溪 温 泉 東 3 丁 目 318 番 地 酒 井 惟 雄
4	泉 質 : ナトリウム-塩化物泉 (中性低張性高温泉) (旧泉質名:弱食塩泉)
5	療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。
浴	急性疾患(特に熱のある場合)、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患 活動性の結核、高度の貧血、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)。
用	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くしき、痔疾 慢性消化器病、慢性皮膚病、病後回復期、疲労回復、健康増進、虚弱児童、慢性婦人病 冷え症、きりきず、やけど。
飲	<del>腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。</del>
用	<del>慢性消化器病、慢性便秘。</del>
浴 用、禁 用 の 一 般 的 注 意 事 項	<p>1 入浴の方法及び注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。</li> <li>(2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。</li> <li>(3) 入浴中は運動浴の場合は別として、一般には安静を守ること。</li> <li>(4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。</li> <li>(5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴(42℃以上)を禁忌とする。</li> <li>(6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし弱い人は逆に浴後其水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。</li> <li>(7) 食事の前、直後の入浴は避けることが望ましい。</li> <li>(8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。</li> <li>(9) その他</li> </ol> <p style="text-align: center;"><del>※ 飲用の方法を注意</del></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(1) 飲用の水温は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。</p> <p>(2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。</p> <p>(4) その他</p> </div> <p style="text-align: center;"><del>大人一人一日の飲用量は80ml以内(ヒ素含有)とし、食後に飲用すること。</del></p> <p>◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい</p>
平成 元 年 9 月 30 日	 決定者 北海道保健環境部